



学校だより
ながや

令和3年度 第3号
令和3年 5月31日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

「聞くこと」「話すこと」

校長 平野 好子

今年、沖縄、九州から東海にかけて、いずれも平年より早い梅雨入りとなりました。関東地方の梅雨入りも近いと思われます。

5月27日（木）に4年生が社会科の授業として、横浜市資源循環局鶴見工場見学の校外学習を行いました。感染症拡大防止対策として、移動のバス内や説明を受ける部屋での間隔をとった座席配置、工場入館時の手指消毒等を行い実施しました。

工場に到着後、見学を担当してくださる職員の方々へのあいさつの中で、「今日は楽しみにしてきました。」という言葉がありました。この見学を本当に楽しみにしていた子どもたちの気持ちが伝わってきました。工場内を興味深げに見学し、職員の方の説明を熱心に聞き質問をする姿や、巨大なごみクレーンが貯められたたくさんのごみをわしづかみにし焼却炉に投入する様子を目の前にして、「うわあ」と思わず驚きの声を上げる生き生きした子どもたちの姿を見ました。学習における見学の大切さを改めて感じさせられました。その場に行って、直に見ること、聞くこと、感じること、とても大切なことです。教室等で学習した写真や映像、文字情報で獲得した知識を定着させることにもなり、また、実際に見ることで、疑問やもっと知りたいことがわいてくるなど、次の学習につながる課題にもなり、学習意欲も高まります。

子どもたちは、学びの中で「知りたいこと」を質問します。本気で、見たり、聞いたりしたからこそ質問するのです。学びの場での質問での「聞く」は、「なんとなく聞く」とことは少し違うように思います。質問された側は、何とか質問に応えようと話します。ですから、質問した側も一生懸命聞きます。「聞くこと」「話すこと」はそれぞれ相手を大事に思う気持ちがなくてはならないのだと思います。「何を自分に伝えようとしているのだろう」と話す相手を大事に思って聞くことで、話し手は「話してよかった」と達成感を味わいます。聞き手にわかるように話そうとする話し手を見ることで、聞き手は自分のために話してくれているのだと感じます。聞き手は「話す力」を育て、話し手は、「聞く力」を育てます。

私たちは、子どもたちが、日々の学びの中で、友達と一緒に本気で取り組むことのできる課題をとらえられるよう指導・支援してまいります。子どもたちが教室で、安心して、聞いたり、話したりすることができるような環境整備にも力を尽くしていきたいと考えています。

まん延防止等重点措置が出されている現在の状況下ではありますが、今後も変わっていくその時々における感染状況に応じて、ガイドラインに沿って学習を継続し、よりよい学びにつながる学習を計画していこうと思います。

保護者の皆様、地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。